



フィールド

地域が 私を育て 地域の未来を ともに育む

東北学院大学 地域総合学部

地域コミュニティ学科

Guide 2026





FIELD WORK in the world

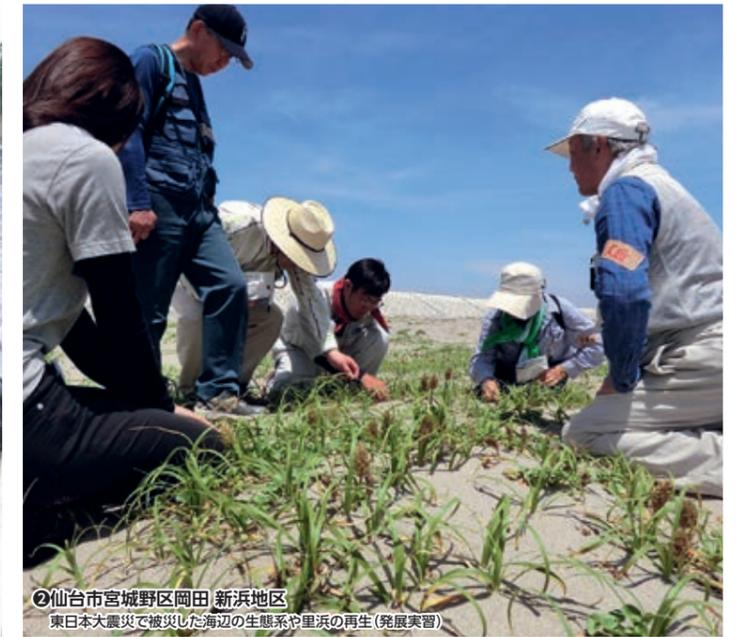
国外のフィールドワークは主に教員の研究によるものですが、海外地域実習やゼミの活動で学生も参加することができます。観光旅行とは全く違う側面から現地の社会や自然環境に触れることは、大学での学びだけでなく、人生における貴重な経験の一つになるでしょう。



①ドイツ
地理的・歴史的な遺産の見学(ゼミ旅行)



①宮城県東松島市
浦戸諸島におけるエコツーリズムの可能性(発展実習)



②仙台市宮城野区岡田 新浜地区
東日本大震災で被災した海辺の生態系や里浜の再生(発展実習)



②モンゴル ウランホト市付近
牧畜風景(教員の研究)



⑤オマーン
乾燥地域の自然環境の調査(教員の研究)



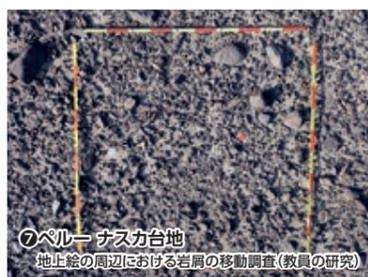
③韓国 ソウル市
バリアフリー政策の資料収集(ゼミの活動)



④スイス チューリッヒ
食文化を学ぶ(海外地域実習)



⑥タイ バンコク
熱帯地域の暮らしと土地利用(海外地域実習)



⑦ペルー ナスカ台地
地上絵の周辺における岩屑の移動調査(教員の研究)



⑧デンマーク
フォルケハウスコレ(成人教育施設)の昼休み(教員の研究)



⑨タイ南西部 カオラック
マングローブの形状測定(ゼミの活動)



⑥岩手県一関市萩荘 芦ノ口地区
地域住民と一緒に田植え活動(実習)



⑦仙台市泉区 山の寺地区
地区住民の防災意識についての聞き取り調査(発展実習)



⑧青森県鰺ヶ沢町
買い物弱者の実態について調査研究(ゼミの活動)



⑨山形県飯豊町 中津川地区
マタギが経営する農家民宿で調査(発展実習)



③宮城県丸森町 耕野地区
原発事故によるタケノコ生産被害の調査(ゼミの活動)



④福島県土湯温泉町
生湯系こけしの実態調査(発展実習)



⑤宮城県名取市
介護福祉士候補生への日本語学習支援(ゼミの活動)

FIELD WORK × 発見

国内や宮城県内のフィールドワークでは、教員だけでなく学生も中心となって活動します。現地の人々のお話を伺ったり、地形や植生について調べたりします。普段なにげなく見ている地域の課題や価値を明らかにすることができます。フィールドで得られる情報をすぐに記録するために、フィールドノートは必携です！

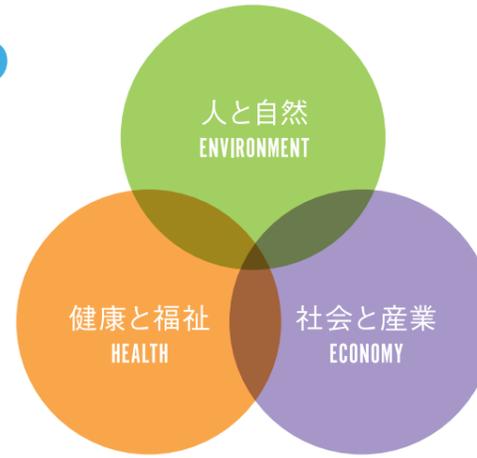
Miyagi

FIELD WORK in Japan

地域に学び、地域の未来を構想する

「地域」という現場から問題をとらえ、「地域」を総合的にとらえる視点をやしなひ、
「よりよい地域」の創造に貢献できる問題解決能力を習得します。

多様な要素から成り立つ地域を深く理解すること、そして、フィールドワークを通じて現場に学び、
地域住民の視点から地域の現状と課題を把握できるようになることを大切にしています。
このために、多様な要素から成り立つ地域コミュニティを
[社会と産業][健康と福祉][人と自然]という3つの視点から理解していきます。



専門分野 | 本学科では、地域の課題を大きく3つの領域に分け、それぞれについて学際的に 学んでいきます。

社会と産業領域

よりよい地域にとって、互に関わりあって経済活動を営み、生計を維持し、近隣と共同で居住環境を維持し、親しく交際することが不可欠です。社会と産業領域では、農山漁村から、街の商店街や産業に目を向け、地域の特性とそこで暮らす人々の関係について、経済地理学、地域政策論、地域資源保全論、地域社会論、地域文化論、地域教育史から考えていきます。

健康と福祉領域

地域で安心して豊かな生活を営むためには、人や地域それぞれの実情に応じた適切な支援・援助が受けられるコミュニティづくりが求められます。健康と福祉領域では、住民や地域が抱える生活課題を把握する手法と解決策を、地域福祉学、福祉社会学、市民活動・NPO論、教育制度論、臨床心理学、生涯教育論から考えていきます。

人と自然領域

人間の生活は、自然との関わりの中で営まれます。人と自然領域では、人と自然の共存、環境、自然条件を活かした土地利用と災害への備え、生活文化など、地域と自然のかかわりを学び、そのあるべき姿や求められる市民性について探究します。自然地理学、生態学、地域防災科学、市民性教育論からこれらを考えていきます。

カリキュラムモデル

1年次

基礎論、基礎実習など

幅広く学び、「地域」の成り立ちを知る

2年次

地域データ分析法、発展実習などのほか、3つの領域ごとの領域専門科目

実際の「地域」に触れ、理解を深める

3年次

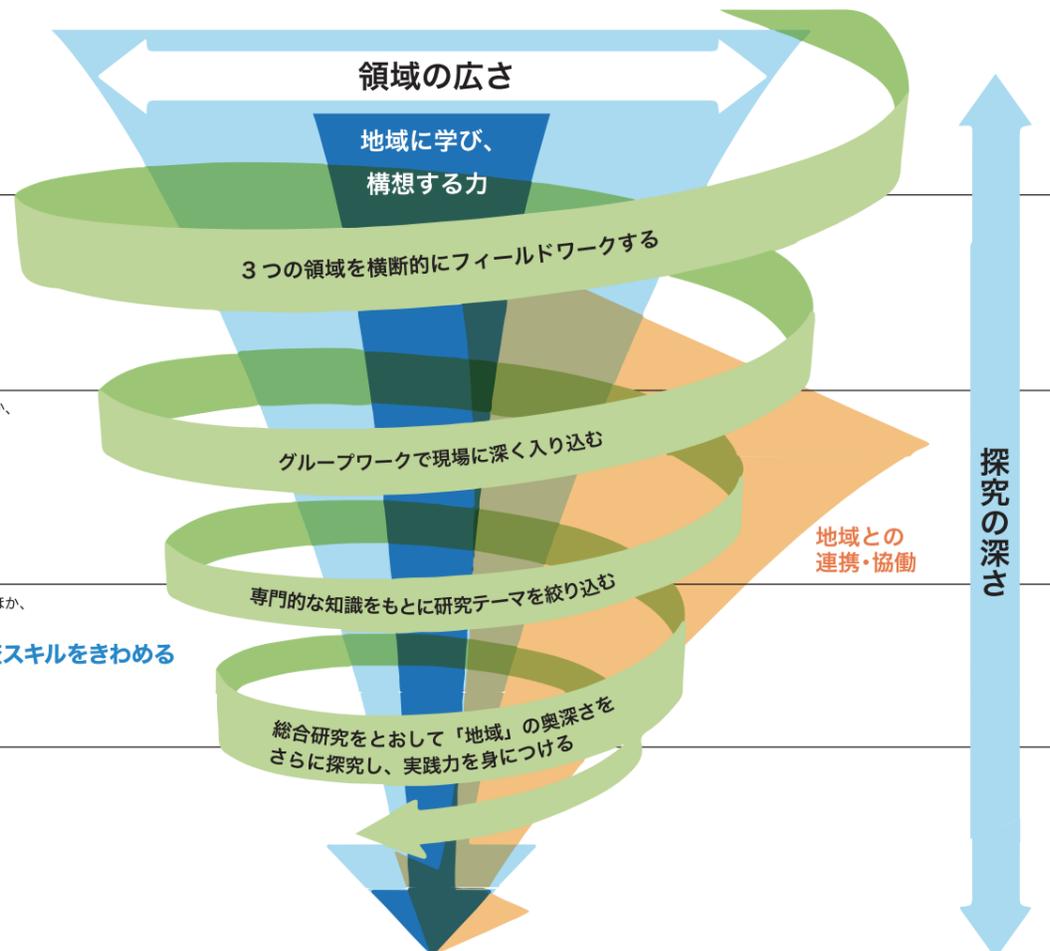
演習、GIS実習、海外地域実習などのほか、3つの領域ごとの領域専門科目

専門的知識を修得し、調査スキルをきわめる

4年次

総合研究など、4年間の集大成

テーマを自ら設定し、調査・研究に従事する



4年間の学び

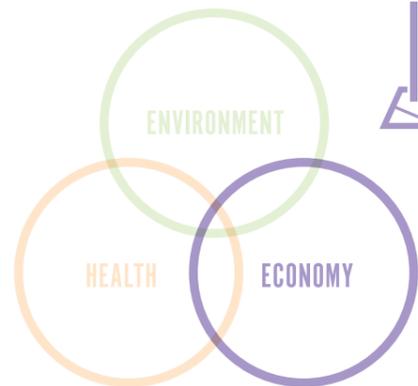
1年次には、基礎論や基礎実習による体験的なフィールドワークを通して、4年間の学びに必要な基本的な知識とスキルを身につけます。2年次には専門的な知識を身につける講義を履修するとともに、実習科目を通して、より本格的な地域調査の技法を学びます。3年次には専門性の高い講義科目に興味のある分野についての知識を深め、「地域コミュニティ学演習Ⅰ・Ⅱ」において地域の課題を分析するための実践的な能力を養います。そして、4年次には、4年間の学びの集大成として自ら地域に関する課題を設定し、必修科目である「総合研究Ⅰ・Ⅱ」に取り組みます。海外に関心のある人は「海外地域実習」、GIS(地理情報システム)のスキルを高めたい人は「GIS実習」というように、それぞれの興味関心に応じて学びを深めることも可能です。

専門教育カリキュラム表

●…[必修]

専門基盤科目	社会と産業基礎論●	健康と福祉基礎論●	人と自然基礎論●	基礎コンピュータ●	市民活動論	地域生活論	地域と自然	SDGs概論
	地域コミュニティ学演習Ⅰ●	地域コミュニティ学演習Ⅱ●	総合研究Ⅰ●	総合研究Ⅱ●	地域学要説	地誌学要説	地理学要説	地域データ分析法
領域専門科目	社会産業		都市と農山村の地理学	経済地理学	地域資源保全論	地域と教育の歴史	地域システム論	地域政策論
	健康福祉		地域福祉論	生涯学習概論Ⅰ	生涯学習概論Ⅱ	社会コミュニケーション論	地域と教育支援	福祉社会学
	人と自然		気候学	生態学	環境社会学	環境マネジメント	地域防災科学	SDGsとシティズンシップ論
実習科目	地域コミュニティ学基礎実習		地域コミュニティ学発展実習		測量学実習	GIS実習	海外地域実習	地域文化論
専門関連科目	日本史概説	外国史概説	民俗学概論Ⅰ	民俗学概論Ⅱ	測量学			地域社会学





地域に学ぶ

社会と産業

ECONOMY

沿岸のまちや農村のなりたち、商店街や地域産業の活性化、人々の社会生活の課題に目を向け、地域の特性とそこで暮らす人々の関係について学びます。

研究紹介

01

災害に負けない東北の活力ある地域づくり

東日本大震災とCOVID-19の流行を乗り越えての、人々の生活空間の構築の実態と、今後のあり方について研究を進めています。仙台市泉区七北田地区において学生たちと地域資源調査を行い、成果を「みやぎまちづくりフェア」で発表しました。



キリンビール仙台工場での聞き取り調査
宮城県多賀城市



研究紹介

02

学校や教育が地域に果たす役割

学校は地域に存在し、地域と共にあります。学校は、子どもたちへの教育のみならず、地域の産業や生活様式の形成に対して重要な役割をはたしてきました。その具体的な役割を歴史的に研究しています。

研究紹介

03

世界の多様性を実感する

日本の地域を理解するためには、異なる地域の文化に触れ、相対化した視点で地域を考えることが必要です。例えば、バリ島は世界的な観光地ですが、そこに住む人々の生活とは？ また、離島のインフラはどのように支えられているのでしょうか。そうしたことを現地で考えていきます。



Pick up!

Seminar

ゼミ紹介



キリンビール仙台工場での聞き取り調査
宮城県多賀城市



産直イベントでの聞き取り調査
勾当台公園(市民広場)

きらりと光る地域づくりから学ぶ

岩動志乃夫ゼミ

より良き地域をつくるために、人間活動の舞台となる自然環境を理解し、その土地柄に合った産業や文化を調査します。聞き取り調査では行政、商工会、各種産業を営んでいる方々の声に耳を傾け、現場から学びます。最近では秋田県の煙火産業、岩手県のホップ栽培等を調査しました。各種統計を整理し、GISによって地図を作成し、その結果を「調査報告書」としてまとめます。春はゼミ生歓迎巡検、夏の合宿調査、秋の花火大会、冬の卒論発表会等と、フィールドにゼミの仲間と一緒に出かけ、親睦を深めながら、学びを深めていきます。

食と農が紡ぐ都市と農村

庄子元ゼミ

人文地理学をベースに、食と農業を通じた都市と農村の関係性を研究しています。現代社会では、農村でつくられた食べ物が都市の食卓を支えるだけでなく、市民農園や産地直売所といった「農的なもの」が都市内に生み出されています。一方、農村ではルーラルツーリズムや田園回帰など、都市住民の視点を通じて農村が再評価されています。私たちは、これらの実践を調査・分析することで、持続可能な都市-農村関係の構築に寄与する研究を目指しています。都市-農村の探究を通じて、地域社会のこれからのあり方を共に考えていきます。

Class

授業紹介



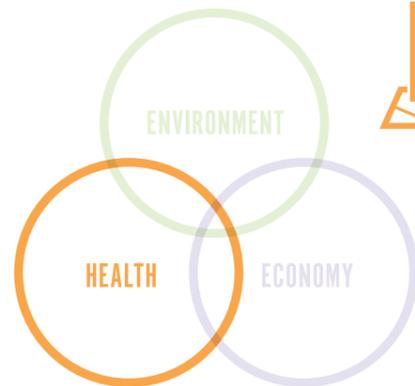
地域文化論

地域文化は、地域活性化に使われる地域資源の重要な要素です。しかし、地域文化はその地域の、その事象だけみても理解することは困難です。この授業では、ジャワ島を事例として、地域に特徴的な食や景観について多様な視点から読み解きます。また、水田(景観)と稲作(生業)という共通点を持つ東北地方との比較により、文化について多様な視点から考える重要性を学びます。



地域資源保全論

近年の各地の地域活性化において、地域資源の存在が注目されています。各地域にある様々なもののうち、その地域の産業や地域が取り組む事業に役立つものや使えるものならば、考え方によっては、どのようなものでも地域資源に成り得ます。この授業ではいかに地域資源を発見し、それを保全しつつ活用すべきかという点について、日本各地の様々な事例を取り上げて学んでいきます。



地域に学ぶ

健康と福祉

HEALTH

住民の健康づくり、子どもから高齢者まで生涯をつうじた学びのあり方、地域福祉の課題、すべての人にやさしい街づくりなど、地域を支える健康や福祉のあり方を学びます。



研究紹介

01

地域における福祉課題の解決策を模索する

地域における福祉課題の解決策を検討しています。例えば、高齢化の進展に伴う買い物弱者対策、ITを活用した高齢者の安否確認方法、空き家問題、災害時に備えたタイムラインの検討などを行ってきました。学生や地域の方たちと一緒に福祉課題の解決方法を考えていきます。

研究紹介

02

人々の学びと地域づくりを支援する生涯学習施設

公民館は、人々の学びと地域づくりを支援する役割を担っています。その公民館制度の持つ問題や課題について明らかにし、改善方法を検討する公民館経営診断技法の研究を行っています。デンマークのフォルケハウスコーレの経営診断についての実地調査も行っています。



研究紹介

03

非営利組織(NPO)の経営

利益のためではなく、ミッション(使命)のために活動する非営利組織(NPO)は、地域の様々な活動の中で、近年、その役割の重要性は、大きくなっています。NPOの力を十分に発揮するための経営のあり方や、事業展開方法を、探究しています。

Pick up!

Seminar

ゼミ紹介



仙台市六郷市民センターでの聞き取り
仙台市若林区

福祉のまちづくりの理論と実践

菅原真枝ゼミ

「誰もが安心して暮らせる社会」の実現を目指し、福祉の視点からまちづくりを学びます。高齢者、障がい者、子どもから大人まで、多様な住民にとって暮らしやすい地域づくりを目的に、学生自身が地域調査を企画し、実施します。インタビューなどを通して福祉課題を明らかにし、実践的な活動を通じて社会の仕組みへの理解を深めています。これまでは介護予防運動の普及や子どもへの遊びの提供に取り組んできました。地域の課題にしっかり向き合い、大学生として何ができるかを悩みながら、地域の方々と一緒によりよい地域社会について考えていきます。



ゼミ風景
同じ本を全員で読んでテーマの理解を深める

地域にあるさまざまな「学び」を知る

泉山靖人ゼミ

地域をより良くするための「学び」や、学校卒業後のスキルアップのための「学び」、学校にうまく適合できない子どもたちのための「学び」など、地域にはさまざまな事情に応える「学び」の機会があります。このような「学び」の機会とその背景の理解を通して、地域づくり・人づくりについて学びます。そして、「学び」の機会にかかわる団体や自治体などについて事前に資料で調べた上で、インタビューなどを通して具体的な活動やその背後にある地域課題などへの理解を深めていきます。



地域福祉論

Class

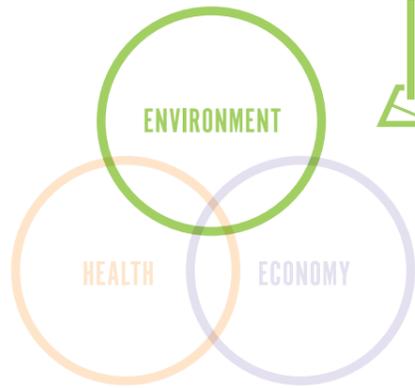
授業紹介



教育と社会

私たちの地域生活の課題は行政サービスだけで解決するわけではありません。地域住民や公私共に携わる福祉関係者が協力し、地域の福祉課題を解決し、誰もが安心して暮らせるようにするための取り組みが必要になります。この講義では、地域住民同士の支え合い、ボランティア活動、行政や関係機関との連携といった、地域社会全体で福祉を支える仕組みを学んでいきます。

地域にはさまざまな困りごとなどのニーズがあります。そのようなニーズに応える取り組みの一つに「学びを得る機会」を地域に用意して地域の人々が困りごとを解決する支援をするものがあり、学校教育や社会教育などの中で提供されています。本講義では、図書館を事例にどのような「学びの機会」が準備され、またどのような考え方がその取り組みを支えているのかを学びます。



地域に学ぶ

人と自然

ENVIRONMENT

地域や地球の自然環境のなりたち、保全・保護、自然災害への備え、そして持続可能な社会の実現に向けた市民性の育成など、自然と人との関わりを学びます。

研究紹介
01

自然の価値の評価と、保全のあり方の探究

地形や地層、気候・気象、水文、土壌、生態系といった自然環境の構成要素の関係性を研究しています。そして、その価値を評価し、保全の方法を考え、さらに、それを活用し、活力ある地域を作り出していく方法を、実践を通して考えていきます。



研究紹介
03

マングローブにおける植物と地形との相互作用と人の暮らし

熱帯・亜熱帯の汽水域に分布するマングローブは、現在、各地で減少し、沿岸地域の社会生態系に悪影響を与えています。その生態系や防災機能をフィールドで調べ、マングローブの環境の保全や、持続的な地域づくりのあり方を探究しています。



研究紹介
02

地形から地域の環境や人の暮らしをとらえる

私たちの生活の場である地形やそれを構成する地層には、その場の歴史や自然災害の情報が残されています。そういった地形や地層を対象に、空中写真や衛星画像の分析、現地測量や露頭観察、試料分析を通じて、地域の自然環境を理解し、自然との付き合い方を考えていきます。

Pick up!

Seminar

ゼミ紹介



津波で運ばれた堆積物の調査
仙台市沿岸部

災害に強いまちづくりと地域防災

柳澤英明ゼミ

私たちが住む地域には様々な災害があるため、命を守るための行動が必要となります。そうした行動が取れるように、地域の歴史や文化をたどりながら、地域ごとに存在する防災力をフィールド調査やデータ分析などから見つけ出し、災害に強いまちづくりに生かす研究を行っています。また、震災復興における課題を地域との交流を通じて考えたり、地域の自然環境を活かした災害対策を考えたりすることで、その地域に適した課題解決の方法を模索していきます。“自分たちの地域を安全・安心に過ごすために何ができるか”について考えていきます。



ベルリンの壁でのフィールドワーク
ドイツ

「あたりまえ」を疑い、新しい社会の創造へ

坪田益美ゼミ

人間は、自然の脅威に対峙し、その恩恵を受けて生きています。そのためには互いを守り、生かし合うコミュニティが必要です。だからこそ、各地域の多様な文化が生まれ、継承されます。しかしその文化に自由を奪われ、理不尽な苦しみや悲しみ、悔しさに苛まれている人もいます。私たちの「あたりまえ」は、私たち自身の自由を奪い、また誰かに害を与えているかもしれません。「あたりまえ」を疑い、見直すことで、より自由で、誰もが自分を大切に思える社会が創れるのでは?そのために、日々いろいろなテーマについて考察、議論しています。



生態学

生態学とは、生物と環境との相互関係を探究する学問です。地球上には、森林や草原など様々な植生がみられ、それらは気候や地形、地質、人為的攪乱の有無など環境の条件から分布が決まります。植生分布を知ることは、地域の環境を知ることにつながります。この講義では、アジアやヨーロッパ、オセアニアの熱帯から寒帯、乾燥帯の各事例を取り上げ、植生を中心に動植物の生態を学びます。

Class

授業紹介



GIS実習

GISとは、Geographical Information System (地理情報システム)の頭文字をとったもので、地域課題を解決するための重要なツールです。かつては地図を作るだけの人には限られていましたが、現在では、誰でもGISを使って自分のアイデアを地図に表現し、地域を探求することができます。この実習では、GISの基本的な使い方を習得します。

現役ちーこむ生がつくった! What is ちーこむ!

ちーこむとは地域コミュニティ学科の愛称です!

ちーこむを選んだ理由

地域密着型の学び!

フィールドワークなど実習の授業が多くあり、自分の目で地域の課題を見ることができ、専門的な面から考えることができる。

学修の幅が広い!

3つの領域の幅広い分野の先生がいて、多岐にわたる分野の学修ができる。

様々な資格取得!

社会科の教員、社会教育主事、地域調査士などの資格が取得できる。

ちーこむの専門科目を一部紹介

社会コミュニケーション論

心理学が専門の先生による授業です。毎回の授業でグループワークがあり、自己開示の大切さを学ぶためにウェビングマップから相手との共通点を探しながら会話したり、集団のコミュニケーションについて学びます。座学とは違って学生同士で授業を進めるところが魅力です!!

共同体と市民社会

この授業では、私たちが生きている近現代社会とはどんな社会なのか、歴史のなかから考えています。世俗化、国民国家、資本主義は近現代社会の特徴です。これらがどのような歴史的背景の中で形成され、どのような課題があるのか学んでいます。過去の映像や例としてオリソピックが取り扱われているため、分かりやすく、面白い授業です!!

SDGsとシティズンシップ論

日常生活の中にある「当たり前」に疑問を持ち、それを出発点に社会の仕組みや課題について深く考えていきます。正解のない問いに対して、自分の言葉で考え表現することが求められるため、教室は学生同士が活発に対話する場となっています。「社会に生きる市民としての自分」を見つめることができ、主体的に社会と関わろうとする姿勢が身につきます。

ちーこむのいいところ

積極的な学生!

行動力があり、授業内外の活動にしっかり取り組む学生が多い。

頼れる教員!

穏やかながらも指導熱心な教員が多く、学修の体制が整っている。

興味を深掘り!

授業で扱う学問が幅広く、多くの学問と触れられるとともに、フィールドワークで充実した学びが得られる。



フィールドワークって何するの…?

2年次で行う発展実習を領域ごとに紹介します



社会と産業

ビール産業の地理学

ビール業界の研究・分析では論文検索を行い、論文を元に発表資料を作りました。発表では先生からアドバイスをもらい、プレゼンテーションのスキルを伸ばすことができました。訪問した麒麟ビール仙台工場では、これまで学んできたビールに関する知識を確認しながら製造工程を学ぶことで、地域の産業についてより一層興味を持つことができました。

健康と福祉

NPO団体と地域

YMCAという施設にいき実践的な内容が学べました。そこでは普段では絶対に会うことができない出会いをして、福祉のことだけを学ぶのではなく、その実習で子供たちとの関わり方を考えることで自分の成長にも繋がる大きな経験になったと思っています。これからの活かせる良い経験でした。



人と自然

海岸ゴミの実態

仙台の新浜海岸を対象地域として実習を進めました。研究の基礎を学び、各自でテーマを設定しました。その後は現地の聞き取りで、地域住民の海洋ゴミへの意識や海と人々の関わり方を調査しました。3000字の論文を書き上げることを目標に、実習の成果をまとめました。自然環境は地域と深く関わっており、コミュニティの中でその価値を継承していくことの大切さを明らかにすることができました。



資格取得を目指している人に聞きました!

社会教育主事(社会教育士)

社会教育主事課程は、1,2年次に対面講義で社会教育に関する基礎知識を学びます。3年次になると、実習があります。その内容は自然の家での活動をサポートしに行ったり、公民館でのイベントを企画したりといったものです。グループワークが中心で、みんなで協力して進めることができますので楽しめます!

教育職員免許状

教職課程では、地域のリアルな課題と向き合いながら、子どもたちに「地域を見る目」や「自分で考える力」を育む方法を学びます。タブレットや地図アプリを使った授業、地域を歩いて学ぶフィールドワークなど、実践的な学びも充実しています。先生という仕事は、教室の中だけでなく、地域の未来にも関わるやりがいのある仕事です。子どもたちと一緒に学び、地域とともに歩む教師を目指しています。



地域コミュニティ学科 教員紹介

社会と産業領域



岩動 志乃夫
いすぎしのぶ
人文地理学
地誌学

東北地方から海外に至る商業地や観光地の形成について研究しています。時空間の産物である地域を地図と聞き取りで考察します。



遠藤 尚
えんどう なお
人文地理学
地域研究(東南アジア)

主にジャワ島やバリ島をフィールドとして、経済成長下の農村における自然資源利用や世帯生計について研究しています。



佐久間 政広
さくま まさひろ
地域社会学
理論社会学

過疎高齢化の著しい農山村を対象に調査研究をおこなっています。地域の共同活動、助け合いを手がかりに地域社会を考察しています。



品田 光春
しなだ みつはる
人文地理学
歴史地理学

新潟県を含む東北地方の鉱山開発(特に近代の油田開発)の盛衰が地域へ与えた影響や、関連する産業遺産の保全活用について研究しています。



庄子 元
しょうじ げん
人文地理学
農村地理学

農村の就業構造・農産物供給・土地利用を調査し、「農村はどんな場所か?」という問いを都市との関係から考えています。最近では農村のメガソーラー開発やスローフードを調査しています。



柳井 雅也
やない まさや
経済地理学
産業地理学

経済の動きや地域づくりについて地図を使って考えています。地域スケールは世界から、町内会まで多様です。



大迫 章史
おおさこ あきふみ
教育史
教育行政学

近代日本におけるキリスト教主義学校の特徴を、国家体制との関係で明らかにしようとしています。また、現代日本の児童・生徒の学力向上のあり方を教育行政・教育政策との関係で研究しています。

健康と 福祉領域



大澤 史伸
おおさわ のぶ
社会福祉論
NPO論

「理念継承・理念浸透」、「社会貢献」をキーワードに営利組織、非営利組織のマネジメントについての研究をしています。学校、企業、福祉施設で働く人々に対してインタビュー調査を行ってきました。



菅原 真枝
すがわら さなえ
福祉社会学
理論社会学

老人ホームで働く外国人介護士に関心があります。特に東南アジアから来ている若者たちにインタビュー調査を行っています。



増子 正
ますこ ただし
地域福祉学
社会福祉学

地域の福祉課題を解決するインフォーマルな活動の財源を確保するための方法(ファンドレイジング)を国内外で調査しています。



泉山 靖人
いずみやま やすと
教育学
図書館情報学

主に公共図書館を対象に、地域の「学びの場」に込められた思い(意図)や、それを実現するための取り組みを調査しています。



一柳 貴博
いちやなぎ たかひろ
特別支援教育
臨床心理学

インクルーシブ教育、特に「発達障害のある子どもたちの友人関係の支援」に向けた、インタビュー調査や質問紙調査を行っています。



清水 貴裕
しみず たかひろ
臨床心理学

人間関係の問題について、「ものごとの見方」と「コミュニケーション」の観点から、解決・支援する方法を研究しています。



原 義彦
はら よしひこ
社会教育学
生涯学習学

地域の生涯学習を推進する公民館の充実方策を研究しています。北欧の成人教育施設の実地調査もしています。

人と自然領域



伊藤 晶文
いとう あきふみ
自然地理学
地形学

主に東北地方の沖積低地、海岸砂丘の成り立ちや、大規模イベント(巨大津波など)による地形変化に関する研究を行っています。



小川 滋之
おがわ しげゆき
植生地理学
民族植物学

東日本太平洋側の落葉広葉樹林の成り立ちに関する研究と、地域に古くからある野菜など人間による植物利用に関する研究をしています。



目代 邦康
もくだいくにやす
自然地理学
環境保全論

崩壊や地すべり、高山の植生景観、開発に伴う自然破壊問題、世界遺産やラムサール条約、ジオパーク、天然記念物などの自然保護制度などについて、研究をしています。



柳澤 英明
やなぎさわ ひであき
津波防災
マングローブ森林生態系

津波が発生する理由やマングローブなどの自然環境を生かした津波対策を考えています。



坪田 益美
つばた まさみ
社会科教育学

多様性を尊重し合いながら、あらゆる人にとって、より生きやすい社会を構想し、自ら参画し、他者と協働する民主主義社会を実現する市民を育てる教育について、社会科という科目を中心に、研究しています。

学校教育・社会教育系



取得可能な資格

- 教育職員免許状
 - 中学校教諭一種免許状(社会)
 - 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
 - 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 社会教育主事・社会教育士
- 測量士補
- 地域調査士
- GIS学術士

想定される卒業後の進路

- 公務員
- 教員
- 金融・保険業
- 観光・旅行業
- 地域コンサルタント業
- 地図調整業
- 測量業
- NPO法人 など

お問い合わせ先

学科についてのご質問は

地域コミュニティ学科(五橋キャンパス)

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1

地域コミュニティ学科合同研究室 TEL&FAX 022-354-8171

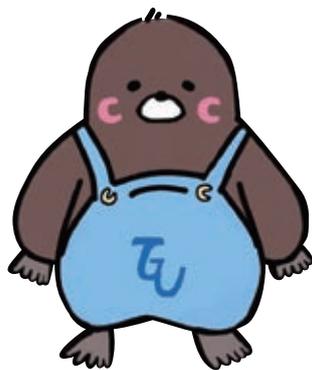


地域コミュニティ学科HP

入試についてのご質問は

東北学院大学アドミッションズ・オフィス(土樋キャンパス)

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL:022-264-6455 FAX:022-264-6377



地域コミュニティ学科 マスコットキャラクター

ちいもぐ

©2023 Department of Regional Community Studies. All Rights Reserved.

このマスコットキャラクターは、地域コミュニティ学科の1期生がデザインしたものです。
地域の課題を深く掘り下げるという学科のコンセプトから「もぐら」をイメージしました。



東北学院大学

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp>